

平成27年度第1回（政治学・国際関係学）グループ合同委員会議事概要
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（政治学・国際関係学グループ）

I. 日時：平成27年11月17日（火）18：00～20：00

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局

III. 出席者：CCC 政治学グループ運営委員会

平野委員、昇委員、名取委員

CCC 国際関係学グループ運営委員会

林委員、佐渡友委員、毛利委員（スカイプ）

事務局 井端事務局長、森下

III. 議事概要

1. 出席委員の紹介

委員会開催にあたり、政治学・国際関係学分野の出席委員の自己紹介が行われた。

2. 報告・検討の概要

(1) 平成27年度の事業計画の説明の後に平成26年度の事業報告書から昨年度の分野別のアクティブ・ラーニング対話集会の活動内容が報告された。

(2) 平成27年度の活動計画

資料①により、分野連携による対話集会の目的及び開催方針の説明が説明され、対話集会の進め方について意見交換された。

3. 平成27年度の分野別のアクティブ・ラーニング対話集会の活動方針

(1) 対話集会の目的、計画、進め方などについて

学生の主体性を引き出し、伸ばす授業が求められることから自ら問題を発見し、答えを見出し実践できる力を育むアクティブ・ラーニングについて、昨年度は分野ごとにアクティブ・ラーニングのイメージについて共有した。今年度は「対話を通じて課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法とそれを実現していくための授業運営の工夫」、「組織的に推進していくため教学マネジメントの工夫」について対話集会を通じて考察を行う。

- ・ 対話集会は、分野連携の9のグループ編成で行うこととしている。
- ・ 政治学・国際関係学グループを1つのグループとして分野連携で対話集会を開催する。
- ・ 分野共通のテーマでアクティブ・ラーニングを考えるのではなく、各分野の先生の知見、分野ごとの視点でテーマを検討するのがねらいである。

(2) 確認事項

- ・ 本年度は昨年とやり方を変え、テーマを中心に対話集会を行う
- ・ テーマは個々の分野のテーマでなく、各分野の先生の知見、分野ごとの視点でテーマを検討するのがねらいである。
- ・ 学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法とそれを実現していくための授業運営の工夫、「組織的に推進していくため教学マネジメントの工夫」について対話集会を通じて考察を行う。
- ・ 例えば、教養と専門の融合・連携、科目の統合などが考えられる。
- ・ 第1回委員では、議論するテーマを決め、次回その入り口になる話題提供の内容を検討し、3月までに対話集会を実施する。

4. 話題提供や意見交換のテーマなどについて主な意見

- ・ 話題性、インパクトあるテーマとして、裁判員制度、18歳選挙権などに対応するディベートを取り入れた新しいアクティブラーニングが考えられるのではないかな。
- ・ オーストラリアなどは参政権が義務化されており、学生の声を取り入れる制度ができている
- ・ パリのCOP21「国際気候変動枠組み条約会議」でも学生の代表が参加し、学生の意見が反映される仕組みなど世界の若者が国際的なテーマにインプットする機会がある。このような知識・技能・態度を統合するアクティブラーニングは重要である。
- ・ 国際的なテーマについてパラメンタリーディベートを行い、知識・技能・態度を統合して定着させる アドボカシー（主張、権利擁護の主張）エデュケーションが重要になってくる。
- ・ 18歳選挙権をテーマとすればどんなディスカッションをするのか
- ・ 初年時教育での主権者教育などが考えられる。高校の授業が変わる中で大学の授業をどう変えるのか、模擬選挙、模擬演説等が考えられる。

<今回の対話集会では何をテーマにするか>

- ・ インパクトあるテーマとして「18歳選挙権」を取り上げ、立法者の立場でクリティカルに判断できる力を培う「初年時のアクティブラーニング」について意見交換することが考えられる。
- ・ 200名クラスのアクティブラーニング事例を話題提供しファシリテータの課題や教学マネジメントの課題を意見交換するのはどうか。
佐渡友先生は昨年度大学院生を活用した授業を実施し成果を上げている事例を話題提供したが、ティーチングアシスタントをどう育成、制度化していくかが課題である。
- ・ 教学マネジメントの事例として、明星大学では教職が連携して教育センターで「勤労学生」を制度化し、初年時教育に活用している。これを話題提供してもらったらどうか。
- ・ 相手の立場理解し、知識・技能・態度を統合して活用・創造できることを目指した「政治・国際関係」のディベートなども考えられる。
- ・ 学位中心のプログラム転換する教学マネジメントも課題、授業科目間の調整・整理・統合、 Semester制などが考えられる。
- ・ アクティブラーニングという授業科目をつくるのも一つの方法である。アクティブラーニングのスペシャリストと専門の教員が連携する授業やいろいろな先生のオムニバス授業、アクティブラーニングと講義科目の連携なども考えられる。JMOCでもアクティブラーニング講座が始まる。
- ・ 難民問題などは大きなテーマになる。
とらえ方は多様であり、分野の異なる学生、留学生、社会との双方向型授業など異分野との意見交換・知識組み合わせによる発想型授業を通じて多面的にとらえることが重要である。
- ・ 留学生の意見を聞くだけでも多様な歴史・背景・考え方を知る大きな効果がある

5. まとめ

(1) テーマについては以下のような内容が考えられる。

- ・ 主権者教育、市民教育など
- ・ 知識・技能・態度の確認、活用・創造
- ・ 学位プログラム中心の科目編成
- ・ 教学マネジメント
- ・ 大人数教室でのアクティブラーニングの手法

(2) 意見交換のテーマの例に当てはめ整理すると以下のようなになる。

【アクティブ・ラーニングに関する項目】

1. 初年次教育でのアクティブ・ラーニング
(主権者教育、市民教育など)
2. 知識・技能・態度の確認・定着を目指したアクティブ・ラーニング
(大人数教室でのアクティブラーニングの手法)
3. 知識の創造を目指したアクティブ・ラーニング
(異分野との意見交換・知識組み合わせによる発想型授業)

【教学マネジメントに関する項目】

1. 学位プログラム中心の科目編成
(教員中心から学位プログラム中心の科目編成への教学マネジメント)
2. ファシリテータ活用の方法・体制と養成

(3) 話題提供について

以上を踏まえて、話題提供の(案)として以下を検討した。

- ① 科目連携、分野横断型チームティーチングの提案 関西大学 名取先生
- ② ファシリテータを制度化し活用する取組み
初年次教育をファシリテートする効果と課題 明星大学 ○○先生
*佐渡友先生に紹介いただく
- ③ 社会の多様性・異文化を理解し知識の創造を目指したアクティブラーニングの提案
(学生の意見も聞きたいので参加してもらおう) 国際基督教大学 毛利先生

6. 次回委員会

12月14日 18:00

次回は12月14日(月)18:00から合同委員会を行い、対話集会の開催要項を検討することにした。